

(1) 英語力向上における対策委員会の基本的な考え方

- ・子どもたちが多様な他者とのコミュニケーションのツールとして使うことができる、異なる文化や考え方に触れ、多様な物事の捉え方ができる、子どもたち自身の将来の選択肢・可能性を広げることができる、そのような「英語力」の育成を目指すということで確認する。数値の向上が目的ではない。

(2) 客観的な評価

- ・「CEFRA I レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合」については、主観的ではなく、客観的に判断できるものがあるとよい。有すると思われる生徒の割合は、もっと多いのではないか。
- ・外部検定試験の補助についても可能か検討してほしい。

(3) 小中連携

- ・小学校と中学校とをどのようにつなげていくのかが大切である。小学校でどこまでやるのか、中学校でどこから何をやらなければならないのかを知ることが必要である。小学校で習っていることで、必要でないことはしない。また、小学校の学びを生かして、中1からでもどんどん表現させていく。
- ・研修等で小中連携のつなぎについて研修を進めてほしい。
- ・中学校に入り「読む・書く」の部分でつまづいている子が、意欲が落ち込んでいる現状がある。
- ・小中のつなぎの問題は全国的な課題ではあるが、ぜひ佐賀県のいいモデルをつくってほしい。

(4) 授業改善について

- ・英語の授業に関し、小～中～高～大と大きな変化(学びのパラダイムシフト)が起こっている。変化に対応して、新たなゴールに向かっていくことが大切である。文法の指導などにおいても、指導する内容に軽重をつけるなどしていくことが大切である。
- ・「言語活動」が、コミュニケーションの活動になっているか、先生たちに理解を促すように、働き掛けを行ってほしい。
- ・活動が自分ごとになっているか、主体的・対話的で深い学びにつながる本物の活動になっているか、本気になる活動になっているかが、言語活動の充実のための重要なポイントである。
- ・論理的思考力を伸ばすことが大切である。英語力だけでなく、他教科の学びとも関連付けながら、思考力を伸ばしていくことも必要である。その際、「思考ツール」は役に立つ。